

東洋史専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
東洋史概論	中国史概説Ⅰ	2	大野 晃嗣	前期 火曜日 2 講時	
東洋史概論	中国史概説Ⅱ	2	大野 晃嗣	後期 火曜日 2 講時	
東洋史基礎講読	『資治通鑑』講読(1)	2	川合 安	前期 月曜日 5 講時	
東洋史基礎講読	『資治通鑑』講読(2)	2	川合 安	後期 月曜日 5 講時	
東洋史各論	中国近世史の諸問題Ⅰ	2	大野 晃嗣	前期 火曜日 5 講時	
東洋史各論	中国近世史の諸問題Ⅱ	2	大野 晃嗣	後期 火曜日 5 講時	
東洋史各論	清朝の外藩モンゴル統治の諸問題	2	岡 洋樹	前期 水曜日 4 講時	
東洋史各論	隋唐時代の諸問題	2	川合 安	後期 金曜日 2 講時	
東洋史各論	六朝時代の諸問題	2	川合 安	前期 金曜日 2 講時	
東洋史各論	『通典』礼制議論講釈	2	下倉 渉	後期 水曜日 2 講時	
東洋史各論	内陸アジア史の諸問題	2	中村 篤志	後期 木曜日 2 講時	
東洋史演習	明清史料研究Ⅰ	2	大野 晃嗣	前期 水曜日 5 講時	
東洋史演習	明清史料研究Ⅱ	2	大野 晃嗣	後期 水曜日 5 講時	
東洋史演習	『晋書』載記の研究Ⅰ	2	川合 安	前期 金曜日 4 講時	
東洋史演習	『晋書』載記の研究Ⅱ	2	川合 安	後期 金曜日 4 講時	

科目名：東洋史概論／ Oriental History (General Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：大野 晃嗣

コード：LB32202 科目ナンバリング：LHM-HIS203J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中国史概説 I

2. Course Title (授業題目) : Outline History of China

3. 授業の目的と概要：中国史に関するいくつかのトピックを取り上げ、時代背景を確認しながら解説を加える。
具体的には

- ・ 科挙とは何か
- ・ 科挙がヨーロッパ社会に与えた影響
- ・ 科挙制度の概要（童子試、郷試、会試、殿試）
- ・ 科挙と魯迅の作品について

以上の内容について、それぞれ 2, 3 回ずつ話す予定である。なお 1 回目はガイダンスである。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : We will cover some topics on Chinese history and study that background.

- ・ What is the Civil Examination in s in Late Imperial Chinas in Late Imperial China?
- ・ The influence that the Civil Examination gave to European society
- ・ Outline of the Civil Examination system
- ・ About the Civil Examination system and the works of Lu Xun

I plan to talk about the above contents two or three times each. The first time is guidance.

5. 学習の到達目標：

中国史における重要なトピックについて知識を深めると同時に、それらの内容について自分の意見を持つことができる。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Deepening your knowledge of important topics in Chinese history, and you can have your own opinion about their content.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 科挙とは何か (1)
3. 科挙とは何か (2)
4. 科挙がヨーロッパ社会に与えた影響 (1)
5. 科挙がヨーロッパ社会に与えた影響 (2)
6. 科挙制度の概要—童子試 (1)
7. 科挙制度の概要—童子試 (2)
8. 科挙制度の概要—郷試 (1)
9. 科挙制度の概要—郷試 (2)
10. 科挙制度の概要—会試、殿試 (1)
11. 科挙制度の概要—会試、殿試 (2)
12. 科挙と魯迅の作品について (1)
13. 科挙と魯迅の作品について (2)
14. 科挙と魯迅の作品について (3)
15. 科挙制度の意義とまとめ

8. 成績評価方法：

出席点 (30%) とレポート (70%)。

9. 教科書および参考書： プリント配布。参考文献は授業中に紹介する。

10. 授業時間外学習：原典 (漢文) を使用しながら授業を進めるので、予習と復習が必要。また指示した書籍の読了を求めることがある。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：東洋史概論／ Oriental History (General Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 2 講時

semester：4 単位数：2

担当教員：大野 晃嗣

コード：LB42203 科目ナンバリング：LHM-HIS203J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中国史概説Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：Outline History of China

3. 授業の目的と概要：中国史に関するいくつかのトピックを取り上げ、時代背景を確認しながら解説を加える。
具体的には

- ・中国史と歴史書
- ・正史と紀伝体
- ・『史記』と司馬遷
- ・正史から小説へ

以上の内容について、それぞれ 2, 3 回ずつ話す予定である。なお 1 回目はガイダンスである。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：We will cover some topics on Chinese history and study that background.

- ・ Chinese history and history book
- ・ The official histories of China and annals-biographies form
- ・ "Shiji" and Sima qian
- ・ From The official histories of China to a literary work

I plan to talk about the above contents two or three times each. The first time is guidance.

5. 学習の到達目標：

中国史における重要なトピックについて知識を深めると同時に、それらの内容について自分の意見を持つことができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Deepening your knowledge of important topics in Chinese history, you can have your own opinion about their content.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 中国史と歴史書 (1)
3. 中国史と歴史書 (2)
4. 中国史と歴史書 (3)
5. 正史と紀伝体 (1)
6. 正史と紀伝体 (2)
7. 正史と紀伝体 (3)
8. 『史記』と司馬遷 (1)
9. 『史記』と司馬遷 (2)
10. 『史記』と司馬遷 (3)
11. 正史から小説へ (1)
12. 正史から小説へ (2)
13. 正史から小説へ (3)
14. 正史から小説へ (4)
15. 中国史における歴史書編纂の意義とまとめ

8. 成績評価方法：

出席点 (30%) とレポート (70%)。

9. 教科書および参考書： プリント配布。参考文献は授業中に紹介する。

10. 授業時間外学習：原典 (漢文) を使用しながら授業を進めるので、予習と復習が必要。また指示した書籍の読了を求めることがある。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

科目名：東洋史基礎講読／ Oriental History (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 月曜日 5 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：川合 安

コード：LB31501 科目ナンバリング：LHM-HIS209J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：『資治通鑑』講読（1）

2. Course Title (授業題目)：Z I Z H I T O N G J I A N 〈R e a d i n g〉 (1)

3. 授業の目的と概要：中国史研究（特に前近代）には、中国古典文（漢文）で書かれた史料（歴史資料）の読解が必須である。そのための基礎訓練の材料として『資治通鑑』唐紀の隋唐交替期の記述をテキストとする。受講者は、このテキストを読解し、訓読と現代日本語訳を作成する作業を体験する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The aim of this course is to help students acquire the basic skills needed to read the Chinese classics as historical materials by reading “Zizhitongjian” (資治通鑑：literally “Comprehensive Mirror in Aid of Governance”).

5. 学習の到達目標：

中国古典文（漢文）で書かれた史料を、辞書を使いこなして読解できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will develop the basic ability to read the Chinese classics as historical materials.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この講義の1～3回目は『資治通鑑』を読解するために必要な事項を解説する講義を行い、4回目以降は、演習形式で行い、テキストを少しずつ区切って読み進める。

- 1、ガイダンス：授業の進め方、『資治通鑑』について、等
- 2、隋唐交替期の歴史
- 3、漢文語法概説
- 4、『資治通鑑』唐紀講読（1） 隋の恭帝と李淵
- 5、『資治通鑑』唐紀講読（2） 李淵の勢力範囲
- 6、『資治通鑑』唐紀講読（3） 王世充と李密の抗争（1）
- 7、『資治通鑑』唐紀講読（4） 王世充と李密の抗争（2）
- 8、『資治通鑑』唐紀講読（5） 王世充と李密の抗争（3）
- 9、『資治通鑑』唐紀講読（6） 東都洛陽方面の情勢
- 10、『資治通鑑』唐紀講読（7） 李密と竇建徳
- 11、『資治通鑑』唐紀講読（8） 煬帝の動向（1）
- 12、『資治通鑑』唐紀講読（9） 煬帝の動向（2）
- 13、『資治通鑑』唐紀講読（10） 煬帝の動向（3）
- 14、『資治通鑑』唐紀講読（11） 江都（揚州）の情勢
- 15、授業の総括

8. 成績評価方法：

2回目の授業以降、毎回課す課題によって評価する。

9. 教科書および参考書： 教科書：資料を配布する

参考書：小川環樹・西田太郎『漢文入門』（岩波書店「岩波全書」、1957年）。

田中謙二編訳『資治通鑑』（筑摩書房「ちくま学芸文庫」、2019年）。

ほかは、授業中に紹介する。

10. 授業時間外学習：課題の作成に取り組む。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note：“○”Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

科目名：東洋史基礎講読／ Oriental History (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 月曜日 5 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：川合 安

コード：LB41501 科目ナンバリング：LHM-HIS209J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：『資治通鑑』講読（2）

2. Course Title (授業題目)：Z I Z H I T O N G J I A N (R e a d i n g) (2)

3. 授業の目的と概要：『資治通鑑』の読解を継続し、中国古典文（漢文）で書かれた史料を読解するためには、漢和辞典のみに依存した予習では限界があることを体得する。2 回目の授業以降、受講者は、全員、書き下し文と現代日本語訳を作成し、あわせて、関連史料や官職、制度等の調査結果についてもまとめて、課題として提出する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The aim of this course is to help students acquire the basic skills needed to read the Chinese classics as historical materials by reading “Zizhitongjian” (資治通鑑：literally “Comprehensive Mirror in Aid of Governance”).

5. 学習の到達目標：

学部演習において最低限必要な、史料読解のための基礎学力を身につけ、手持ちの漢和辞典のみならず、東洋史研究室所蔵の大型辞書や関連の基本的史料などを自由自在に使いこなせるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will develop the basic ability to read the Chinese classics as historical materials.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

最初の 2 回は講義形式、3 回目以降は演習形式で行う。

1、ガイダンス、隋唐史関係研究論文の調べ方等

2、隋唐時代の官職、制度等の調べ方

3、『資治通鑑』唐紀講読（1）江都における反乱計画（1）

4、『資治通鑑』唐紀講読（2）江都における反乱計画（2）

5、『資治通鑑』唐紀講読（3）江都における反乱部隊決起（1）

6、『資治通鑑』唐紀講読（4）江都における反乱部隊決起（2）

7、『資治通鑑』唐紀講読（5）煬帝の最期（1）

8、『資治通鑑』唐紀講読（6）煬帝の最期（2）

9、『資治通鑑』唐紀講読（7）煬帝の親近者の処刑

10、『資治通鑑』唐紀講読（8）宇文化及、江都で大丞相となる

11、『資治通鑑』唐紀講読（9）李淵、長安で相国となる

12、『資治通鑑』唐紀講読（10）宇文化及、長安帰還を計画

13、『資治通鑑』唐紀講読（11）沈法興の挙兵

14、『資治通鑑』唐紀講読（12）稽胡の反乱

15、授業の総括

8. 成績評価方法：

2 回目の授業以降、毎回の授業で課す課題によって評価する。

9. 教科書および参考書：教科書：資料を配布する

参考書：授業中に紹介する

10. 授業時間外学習：授業時間外に課題（漢文史料の訳注）を作成する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note：“○”Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：東洋史基礎講読（3 セメスター）と連続して履修することが望ましい。

科目名：東洋史各論／ Oriental History (Special Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 5 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：大野 晃嗣

コード：LB52502 科目ナンバリング：LHM-HIS304J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中国近世史の諸問題 I

2. Course Title (授業題目) : Issues of the Early Modern China

3. 授業の目的と概要：近世中国における社会と官僚制度・教育制度などについての基礎的知識を身につけると同時に、英語文献の読解力を養う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : The purpose of this lesson is to learn basic knowledge about society and the bureaucracy and education system in early modern China and to develop the ability to read English papers on Chinese historical research.

5. 学習の到達目標：

欧米の中国史研究の読解を通して、その研究の視点を学ぶとともに、近世中国王朝の官僚機構と教育システムについて基本的な知識を身につける。なお、英語文献を日本語訳をしながら授業を進めるため、事前の翻訳作業と提出が必要となるので注意すること。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : Reading of Western Chinese history research, students learn its viewpoint and get basic knowledge about the bureaucracy and education system of the early modern Chinese dynasty. Students need to submit the translation of the English paper into Japanese before the class.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。このクラスコードは【 】です。Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. ガイダンスー史料の背景と工具書ー
2. 中国近世史の諸問題 I ー (1) 及び行政制度の基礎知識
3. 中国近世史の諸問題 I ー (2) 及び行政制度の基礎知識
4. 中国近世史の諸問題 I ー (3) 及び社会構造の基礎知識
5. 中国近世史の諸問題 I ー (4) 及び社会構造の基礎知識
6. 中国近世史の諸問題 I ー (5) 及び法律制度の基礎知識
7. 中国近世史の諸問題 I ー (6) 及び行政区画の基礎知識
8. 中国近世史の諸問題 I ー (7) 及び行政区画の基礎知識
9. 中国近世史の諸問題 I ー (8) 及び科举制度の基礎知識
10. 中国近世史の諸問題 I ー (9) 及び科举制度の基礎知識
11. 中国近世史の諸問題 I ー (10) 及び人事制度の基礎知識
12. 中国近世史の諸問題 I ー (11) 及び人事制度の基礎知識
13. 中国近世史の諸問題 I ー (12) 及び科举と近世中国社会に関する討論 (1)
14. 中国近世史の諸問題 I ー (13) 及び科举と近世中国社会に関する討論 (2)
15. 中国近世史の諸問題 I ー (14) 及びまとめ

8. 成績評価方法：

授業中の発表時にレポートの提出を要求する。

9. 教科書および参考書： プリント配布。参考文献は授業中に随時指示する。

10. 授業時間外学習： 毎回、プリントを日本語訳し、また疑問点をまとめてくる必要があり、それを授業中に問う。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：東洋史各論／ Oriental History (Special Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 5 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：大野 晃嗣

コード：LB62502 科目ナンバリング：LHM-HIS304J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中国近世史の諸問題Ⅱ

2. Course Title (授業題目) : Issues of the Early Modern China

3. 授業の目的と概要：近世中国における社会と官僚制度、教育制度についての基礎的知識を身につけると同時に、英語で書かれた中国史の研究論文の読解力を養う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : The purpose of this lesson is to learn basic knowledge about society and the bureaucracy and education system in early modern China and to develop the ability to read English papers on Chinese historical research.

5. 学習の到達目標：

英語で書かれた中国史に関する学術論文を読みながら、近世中国の社会と官僚制度。教育システムについて基本的な知識を学ぶ。なお、英語文献を日本語訳しながら授業を進めるため、事前の翻訳作業と提出が必要となるので注意すること。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : The purpose of this lesson is to learn basic knowledge about society and the bureaucracy and education system in early modern China and to develop the ability to read English papers on Chinese historical research. Students need to submit the translation of the English paper into Japanese before the class.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

本授業はオンラインによって行う。

1. ガイダンスー史料の背景と工具書ー

2. 中国近世史の諸問題Ⅱー (1) 及び行政制度の基礎知識

3. 中国近世史の諸問題Ⅱー (2) 及び行政制度の基礎知識

4. 中国近世史の諸問題Ⅱー (3) 及び商業史の基礎知識

5. 中国近世史の諸問題Ⅱー (4) 及び商業史の基礎知識

6. 中国近世史の諸問題Ⅱー (5) 及び法律制度の基礎知識

7. 中国近世史の諸問題Ⅱー (6) 及び行政区画の基礎知識

8. 中国近世史の諸問題Ⅱー (7) 及び行政区画の基礎知識

9. 中国近世史の諸問題Ⅱー (8) 及び行政区画の基礎知識

10. 中国近世史の諸問題Ⅱー (9) 及び科举制度の基礎知識

11. 中国近世史の諸問題Ⅱー (10) 及び科举制度の基礎知識

12. 中国近世史の諸問題Ⅱー (11) 及び科举制度の基礎知識

13. 中国近世史の諸問題Ⅱー (12) 及び社会構造と科举制度に関する討論

14. 中国近世史の諸問題Ⅱー (13) 及び経済構造と科举制度に関する討論

15. 中国近世史の諸問題Ⅱー (14) 及びまとめ

8. 成績評価方法：

授業中の発表時にレポートの提出を要求する。

9. 教科書および参考書： プリント配布。参考文献は授業中に随時指示する。

10. 授業時間外学習： 毎回、プリントを日本語訳し、また疑問点をまとめてくる必要があり、それを授業中に問う。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicate the practical business

12. その他：

科目名：東洋史各論／ Oriental History (Special Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：岡 洋樹

コード：LB53401 科目ナンバリング：LHM-HIS304J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：清朝の外藩モンゴル統治の諸問題

2. Course Title (授業題目) : The Qing's rule over Mongolia

3. 授業の目的と概要：清朝（大清国）は、中国最後の王朝であるが、最盛期におけるその支配下にはユーラシア内陸部の広大な空間が含まれた。とくにモンゴル高原から新疆北部に分布するモンゴル系遊牧民諸集団は、清朝の拡大過程で重要な役割を果たした。そもそも清朝自体が満蒙の王族と漢人諸侯による太宗ホンタイジ推戴を画期として成立したのであり、モンゴルはその国家構造の不可分の一部を構成した。1644 年の入関により中国本土支配の開始により、モンゴルは支配エリートたる八旗と内地諸省とともに新の統治カテゴリーの一つとしての「外藩」を構成した。「外藩」体制は、清代を通じて維持され、その最終的な消滅は、1920～30 年代のことである。それゆえ、清の国家構造の特徴である「外藩」は、近代の東北アジア史の「焦点」の一つであった。本講義では、近代をも視野に含めつつ、清朝統治における外藩部分の制度的・社会的特徴を概観しつつ、アジアにおける前近代帝国統治の意味を考察する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : The territory of the Qing dynasty, the last of Chinese dynasties, covered broad space of Inner Eurasian region where various nomadic peoples lived. Especially the Mongolian nomads played important role in the Qing's advancement. The Qing itself was established by Manchu-Mongolian noble princes and Chinese warlords when they enthroned Taicong Huntaiji in 1636 and the former Mongolian polities were comprised in its ruling structure. As the result of the Qing's advancement into China proper in 1644, Mongolian princes were incorporated in the administrative structure called "Wai fan". The Wai fan regime was maintained until the collapse of the Qing's rule in 1912 and finally disappeared in 1920-30s. Accordingly the collapse of Wai fan regime became a pivot of political turbulence of Modern Northeast Asia. In this lecture The historical context of the Qing's rule over Mongolia is discussed from the viewpoints of administrative system and social structure and furthermore the general nature of the rule of multicultural pre-modern empire.

5. 学習の到達目標：

清朝の国家統治が、その内陸アジア部分においていかなる制度的特徴と、歴史的な文脈を有するのかを学ぶことで、東北アジアの文化的多様性の歴史的淵源を理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : Students are expected to understand about the historical origin of the cultural diversity of modern Northeast Asia through investigating the Qing's ruling structure and its historical context of Inner Asian history.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

講義では、以下の論題について考察を行う。

1. 清朝のモンゴル統治カテゴリーとして「外藩」

清朝の国家構造は、皇帝とマンジュ諸王が率いる支配エリートとしての八旗、モンゴル諸王属国としての外藩、明の領域を継承した内地直省の三つの部分から構成されていた。ここでは、清の外藩の統治構造を制度的に概観する。

2. 外藩統治成立の歴史的経緯

清の統治カテゴリーとしての外藩は、17 世紀から 18 世紀にかけて漸次形成されたが、その統治要件の多くが北元期のモンゴルに由来するものであった。ここでは、清初から 17 世紀末までの満蒙関係を概観しつつ、北元期のモンゴル社会における統治のあり方が清の外藩へと取り込まれていく過程を検討する。

3. 清代モンゴルの社会構造

清の統治下におけるモンゴルの社会構造は、1950 年代末からモンゴル人民共和国の研究者によって、文書史料（档案）を用いて研究されてきた。その後モンゴル国や中国内モンゴルに残る膨大な文書史料が刊行され、当時モンゴルの社会構造が解明されつつある。ここでは、最新の研究成果を用いて、モンゴル遊牧民社会の特徴を論じる。

4. 「封禁政策」論の問題

清のモンゴル統治の特徴としてよく言及されるのが「封禁」と呼ばれる政策である。これは、内地直省と外藩の相互の人の往来を厳しく制限し、漢人とモンゴル人の分離統治をはかったとするものである。ここでは、近年の文書史料による研究成果を踏まえて、封禁政策の現実性について議論する。

5. 清朝のモンゴル統治の歴史的な文脈

清のモンゴル統治の歴史的な性格については、これまで様々な議論がなされてきた。ここでは、清の支配期のモンゴルを、モンゴル史の文脈に位置付けるとともに、清朝国家の歴史的な性格にも言及したい。

8. 成績評価方法：出席と学期末に課するレポートにより評価する。

9. 教科書および参考書：教科書は特に指定しない。参考文献は講義の中で適宜指示する。

10. 授業時間外学習：出席者は、毎回講師が指示する文献を読むことによって、講義に対する理解を深めること。

11. 実務・実践的授業/Practical business: ※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

12. その他：

科目名：東洋史各論／ Oriental History (Special Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：川合 安

コード：LB65203 科目ナンバリング：LHM-HIS304J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：隋唐時代の諸問題
2. Course Title (授業題目)：Subjects of Sui and Tang dynasties
3. 授業の目的と概要：隋唐時代は、六朝時代の政治的分裂を克服して統一を回復した時代であったが、なお、多くの矛盾をかかえていた。このような隋唐時代政治史の諸問題について考察し、理解を深める。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course covers the political history of Sui and Tang dynasties (589-907) to help students understand the characteristics of the Sui and Tang dynasties in Chinese history.
5. 学習の到達目標：
隋唐時代の政治史の諸問題について、その概略を理解し、特に関心をもった問題について、関連の研究論文等の調査を進め、考察できるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students gain the perspective needed to review the common image of the Sui and Tang dynasties.
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
講義形式で授業を行い、2 回目以降、毎回、課題を課す。

1、ガイダンス、隋唐時代の概略
2、隋王朝の政治
3、貞観の治
4、唐と突厥
5、唐と高句麗
6、則天武后の時代
7、玄宗の時代
8、唐と渤海国
9、安史の乱
10、徳宗の時代
11、憲宗の時代
12、牛李の党争
13、会昌の廃仏
14、黄巢の乱
15、総括
8. 成績評価方法：
2 回目以降、毎回の授業で課す課題によって評価する。
9. 教科書および参考書： 教科書：資料を配布する。
参考書：布目潮瀨・栗原益男『隋唐帝国』（講談社「学術文庫」、1997 年）。
気賀澤保規『絢爛たる世界帝国』（講談社「学術文庫」、2020 年）。
その他、授業で紹介する。
10. 授業時間外学習：課題の作成を行う。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
12. その他：

科目名：東洋史各論／ Oriental History (Special Lecture)

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：川合 安

コード：LB55205 科目ナンバリング：LHM-HIS304J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：六朝時代の諸問題
2. Course Title (授業題目)：Subjects of The Six Dynasties Time
3. 授業の目的と概要： 中国の六朝時代（魏晉南北朝時代、220～589）は、秦漢古代帝国の崩壊をうけて、新たな国家秩序構築の模索が行われた時代であった。講義では、この時代につくられた政治・社会体制—いわゆる「貴族制」の構造や実態について分析し、当時を生きた人々の社会的活動や思想などの具体相を浮かび上がらせることを試みる。この混沌と模索の時代を生きた人々の営みについて、自分なりに考えつつ、中国史における六朝時代の意味について理解を深めることを目的とする。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course covers the history of the Six Dynasties time (220-589) to help students understand the characteristics of the Six Dynasties in Chinese history.
5. 学習の到達目標：
六朝時代の政治・社会体制の特質を理解し、興味をもった論点について、自分なりに調査して論じることができるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students gain the perspective needed to review the common image of the Six Dynasties time.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
講義形式で授業を行い、2回目以降、毎回、課題を課す。

1、ガイダンス、六朝時代の概略
2、秦漢帝国の概要
3、九品官人法と貴族制の成立
4、東晋の貴族制
5、孫恩・盧循の乱
6、劉宋政権の成立
7、南斉の政治
8、北魏・孝文帝の改革
9、梁の武帝の改革
10、『梁書』と『南史』
11、侯景の乱
12、陳朝の成立
13、東魏・北斉の政治
14、西魏・北周の政治
15、総括と展望
8. 成績評価方法：
2回目以降の授業で毎回課す課題によって評価する。
9. 教科書および参考書： 教科書：資料を配布
参考書：川勝義雄『魏晉南北朝』（講談社「学術文庫」2003年）。
川本芳昭『中華の崩壊と拡大』（講談社「学術文庫」2020年）。
ほかは、講義中に紹介する。
10. 授業時間外学習：課題の作成を行う。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
12. その他：

科目名：東洋史各論／ Oriental History (Special Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

Semester：6 単位数：2

担当教員：下倉 渉

コード：LB63205 科目ナンバリング：LHM-HIS304J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：『通典』礼制議論講釈
2. Course Title (授業題目)：Study of articles about Lizhi(礼制) recorded in "Tongdian(通典)"
3. 授業の目的と概要：杜佑の著した『通典』は食貨・選挙・職官・礼・楽・兵・刑・州郡・边防の 9 部門からなる。9 つの部門の内、礼を扱った部分の巻数が最も多く、杜佑は本書 200 巻の半分 100 巻で歴代の礼制に関する記載を集成している。“礼典”と呼ばれるこの部門には、皇帝の即位儀礼などといった国家典礼の他、冠婚葬祭の如き人生儀礼に関する式次第・議論も採録されている。本講義で取り上げたいのは後者である。特に、知識人の間で交わされた議論について注目したい。ここでは経書の記載を根拠にしながらも、当時特有の儒家的な論法が展開されているケースもある。よって分析にあたっては、その論理展開を虚心に追いかけることが肝要であろう。所掲の議論を部分的に取り上げるのではなく、項目単位で通読して全体の論調を把握するように心がけなければならない。また、議論の中には、当時特有の習俗と覚しき記載も確認できる。こうした非「儒家」的な側面にも配慮する必要がある。授業では、一項目を単位として所掲の議論を如何に解釈すべきか、講義形式で論じる。礼制に関する記録を素材に社会的な考察を行うこと、つまり“礼社会史”とも称すべき手法を試みることが、この授業の目的である。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：“Tongdian(通典)” written by Du You(杜佑) is composed of nine chapters titled “ shihuo(食貨) ” “ xuanju(選挙) ” “ zhiguan(職官) ” “ li(礼) ” “ yue(楽) ” “ bing(兵) ” “ xing(刑) ” “ zhoujun(州郡) ” “ bianfang(边防) ”. Of the nine chapters, the part related to li(礼) has the largest number of volumes, Du You(杜佑) has compiled the descriptions of successive li(礼) system in 100 volumes, which is half of the 200 volumes of this book. This section, called the “ lidian(礼典),” contains national rituals such as the emperor’s coronation ritual, as well as ceremonies and articles related to life rituals such as ceremonial occasions. In this lecture, I would like to focus on the latter, especially the discussions of scholars in that direction. If you read some of their arguments, you will find that some of them were based on the description in the Confucian textbooks, but developed their arguments with a unique logic. In order to grasp the logic firmly, we should not take up a part of each discussion separately, but analyze the discussions on the same subject collectively and try to understand the whole tone. And, because scholars had also mentioned the unique social customs in the era in their claims, I would like to add the considerations in this lecture with respect to such article.
5. 学習の到達目標：
 1. 学生たちは『通典』という書籍の性格について理解を深める。
 2. 後漢から隋唐時代にかけての儒学的な思考様式について理解を深める。
 3. 同時代に行われていた社会的習俗について理解を深める。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：
 1. Students learn about the nature of “Tongdian(通典)”.
 2. Students learn about Confucian thinking on the “ li(礼) ” system between the later Han and Sui Tang eras.
 3. Students learn about the customs that were practiced in society between the later Han and Sui Tang eras.
7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は講義方式で行う。

 1. ガイダンス
 2. 『通典』という書物について
 3. 礼制議論における統計上の傾向について
 4. 引用記事の出典について
 5. 嘉礼について①——巻 59 の議論——
 6. 嘉礼について②——巻 60 の議論——
 7. 吉礼について①——巻 51 の議論——
 8. 吉礼について②——巻 52 の議論——
 9. 凶礼について①——巻 54 の議論——
 10. 凶礼について②——巻 55 の議論——
 11. 凶礼について③——巻 56 の議論——
 12. 凶礼について④——巻 57 の議論——
 13. 西晋泰始礼と『通典』礼制議論との関係について
 14. 唐開元礼と『通典』礼制議論との関係について
 15. まとめと試験
8. 成績評価方法：筆記試験によって評価する。
9. 教科書および参考書：教科書はなし。講義に使用する資料は授業ごとに配付する。参考書についてはその都度紹介する。
10. 授業時間外学習：『儀礼』や『礼記』といった儒家の経書について事前に学習し、かつその原文に親しんでおくことが望ましい。
11. 実務・実践的授業/Practical business：※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note：“○”Indicates the practical business
12. その他：

科目名：東洋史各論／ Oriental History (Special Lecture)

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：中村 篤志

コード：LB64205 科目ナンバリング：LHM-HIS304J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：内陸アジア史の諸問題

2. Course Title (授業題目) : Issues of Inner Asian History

3. 授業の目的と概要：本講義では、内陸アジア史における生業や民族の境界を越える広域的な人やモノの移動について学ぶ。まず古代から近現代までいくつかの最新研究を解説する。次に清代モンゴルの事例を詳しく取り上げ、その歴史的意義について解説する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course provides the widespread movement of people and goods transcending differences in livelihood and ethnicity in the history of Inner Asia.

First, the lecturer explains some of the latest research from ancient times to modern times. Next, explains the historical significance of the Mongols of the Qing dynasty in more detail.

5. 学習の到達目標：

内陸アジア史上の事例を通じて、広域的な人やモノの移動の重要性、それを研究する手法について理解を深める。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : The purpose of this course is to help students better understand the importance of the widespread movement of people and goods, and the methods used to study it.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は講義方式でおこなうが、単元毎の小テストとその振り返りによっては内容を変更する場合がある。

1. ガイダンス

2. 内陸アジアの気候、風土、現代遊牧民の暮らし

3. 初期遊牧帝国と「集落」

4-5. ウイグルからモンゴルへ：カラコルムの歴史的 position

6-7. モンゴル帝国の「首都圏」と情報ネットワーク

8. 清朝統治下のモンゴル

9. 人の往来をめぐって

10-11. 駅舎を行き交う人、モノ、情報

12-14. 北京のモンゴル王公

15. まとめ、レポートに向けて

8. 成績評価方法：

単元毎の小テスト 50%、期末レポート 50%

9. 教科書および参考書：教科書はない。資料はこちらで作成し配布する。

内陸アジア史の基礎知識については、以下を読んでおくが良い。

林俊雄『スキタイと匈奴：遊牧の文明（興亡の世界史）』講談社、2007 年

森安孝夫『シルクロードと唐帝国（興亡の世界史）』講談社、2008 年

白石典之『モンゴル帝国誕生：チンギス・カンの都を掘る』講談社、2017 年

宮脇淳子『モンゴルの歴史：遊牧民の誕生からモンゴル国まで』刀水書房、2002 年（増補新版 2018 年）

10. 授業時間外学習：資料は事前に web で配信するので、熟読してから授業に臨むこと。

また、小テストの回答は受講者全員で共有し、次の回に振り返りを行う。学生同士でお互いの回答を見て考えを深め、各自足りない部分を補うこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：東洋史演習／ Oriental History (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：大野 晃嗣

コード：LB53502 科目ナンバリング：LHM-HIS311J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：明清史料研究 I

2. Course Title (授業題目) : Studies of Ming and Qing historical sources

3. 授業の目的と概要：中国明清時代の漢文史料読解を通じて、読むための手続き（史料の探し方や辞書・索引の使い方等）を習得する。その上で様々な課題探究に対する基礎知識を得る。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : This course is designed to help students learn how to search for historical materials and how to use dictionaries / index through reading the Chinese historical documents of Ming Qing Period. Then students get basic knowledge on exploring various subjects about Chinese history.

5. 学習の到達目標：

内容読解に当たっては、同時代人の文集等から関係史料を収集して、理解を深める訓練を行う。受講者は、全員毎回書き下し文を準備し、口頭で発表を行う。日本語を母語としないものは訓読、日本語翻訳どちらで発表してもよい。なお、訓読の場合でも適宜日本語訳について問う。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : In reading the text, students collect related historical materials by other contemporaries' writings and train to deepen understanding. Students perform a presentation in every class.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。このクラスコードは【 】です。Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. ガイダンスー史料の背景と工具書の使い方ー
2. 明清史料研究 I - (1)
3. 明清史料研究 I - (2)
4. 明清史料研究 I - (3)
5. 明清史料研究 I - (4)
6. 明清史料研究 I - (5)
7. 明清史料研究 I - (6)
8. 明清史料研究 I - (7)
9. 明清史料研究 I - (8)
10. 明清史料研究 I - (9)
11. 明清史料研究 I - (10)
12. 明清史料研究 I - (11)
13. 明清史料研究 I - (12)
14. 明清史料研究 I - (13)
15. 明清史料研究 I - (14)

8. 成績評価方法：

発表内容（平常点）

9. 教科書および参考書： プリント配布。参考文献は授業中に随時指示する。

10. 授業時間外学習： 毎回、予習と復習をした上で出席することが必要。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他： 東洋史基礎講義を履修したか、履修中であることが望ましい。

科目名：東洋史演習／ Oriental History (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 5 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：大野 晃嗣

コード：LB63502 科目ナンバリング：LHM-HIS311J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：明清史料研究Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：Studies of Ming and Qing historical sources

3. 授業の目的と概要：卒業論文を作成していく上で基本となる漢文史料読解力を向上させると同時に、扱える中国近世史料の知識を増やし、明清時代史の研究方法を理解する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Students will improve the reading skills of historical materials in Ming Qing Period and understand the research method of Early Modern China which is necessary to write a graduation thesis.

5. 学習の到達目標：

内容読解に当たっては同時代人の文集等から関係史料を収集して、理解を深める訓練を行う。受講者は、全員毎回書き下し文を準備し、口頭で発表を行う。日本語を母語としないものは訓読、日本語翻訳どちらで発表してもよい。なお、訓読の場合でも適宜日本語訳について問う。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：In reading the text, students collect related historical materials by other contemporaries' writings and train to deepen understanding. Students perform a presentation in every class.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

本授業は対面によって行う。

1. ガイダンスー史料の背景と工具書の使い方ー

2. 明清史料研究Ⅱー(1)

3. 明清史料研究Ⅱー(2)

4. 明清史料研究Ⅱー(3)

5. 明清史料研究Ⅱー(4)

6. 明清史料研究Ⅱー(5)

7. 明清史料研究Ⅱー(6)

8. 明清史料研究Ⅱー(7)

9. 明清史料研究Ⅱー(8)

10. 明清史料研究Ⅱー(9)

11. 明清史料研究Ⅱー(10)

12. 明清史料研究Ⅱー(11)

13. 明清史料研究Ⅱー(12)

14. 明清史料研究Ⅱー(13)

15. 明清史料研究Ⅱー(14)

8. 成績評価方法：

発表内容(平常点)

9. 教科書および参考書：プリント配布。参考文献は授業中に随時指示する。

10. 授業時間外学習：毎回、予習と復習をした上で出席することが必要。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

12. その他：東洋史基礎講義を履修したか、履修中であることが望ましい。

科目名：東洋史演習／ Oriental History (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：川合 安

コード：LB55405 科目ナンバリング：LHM-HIS311J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：『晋書』載記の研究 I

2. Course Title (授業題目)：A study of JINGSHU ZAIJI

3. 授業の目的と概要：五胡十六国時代の漢文史料、『晋書』載記を読む。受講者は、4 回目の授業以降、該当部分の書き下し文と現代日本語訳を準備するほか、『晋書』載記以外の関連史料も参照して、『晋書』載記の記述と比較検討し、その結果をまとめて課題として提出する。このような作業を通じて、漢文史料読解—研究の手続きを体得し、漢文読解能力の向上を目指す。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The aim of this course is to become able to handle the Chinese classics as historical materials for research by reading “Zaiji” (載記：records of Wu Hu [五胡：The Five Barbarians]) in “Jing Shu” (晋書：History of Jing) .

5. 学習の到達目標：

中国古代・中世の漢文史料を読解し研究するための基本的実践できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students handle the Chinese classics as historical materials for research.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

『晋書』巻 104 石勒載記上を読み、関連する歴史的事項を調査する。

- 1、ガイダンス、『晋書』載記について
- 2、五胡十六国時代の概略
- 3、『晋書』載記読解の实例
- 4、『晋書』石勒載記上を読む (1) 石勒、苟晞らを殺害
- 5、『晋書』石勒載記上を読む (2) 石勒と劉琨
- 6、『晋書』石勒載記上を読む (3) 石勒、江南攻略を図る (1)
- 7、『晋書』石勒載記上を読む (4) 石勒、江南攻略を図る (2)
- 8、『晋書』石勒載記上を読む (5) 石勒、鄴を攻撃
- 9、『晋書』石勒載記上を読む (6) 石勒、襄国に拠る
- 10、『晋書』石勒載記上を読む (7) 石勒と王浚の抗争 (1)
- 11、『晋書』石勒載記上を読む (8) 石勒と王浚の抗争 (2)
- 12、『晋書』石勒載記上を読む (9) 石勒、鄴を平定
- 13、『晋書』石勒載記上を読む (10) 襄国に太学を設置
- 14、『晋書』石勒載記上を読む (11) 鄴の経営
- 15、授業の総括

8. 成績評価方法：

毎回の課題によって評価する。

9. 教科書および参考書：教科書：資料を配布する。

参考書：三崎良章『五胡十六国【新訂版】』（東方書店「東方選書」2012 年）。小野響『後趙史の研究』（汲古書院、2020 年）。その他、授業中に紹介する。

10. 授業時間外学習：課題の作成に取り組む。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note：“○”Indicates the practical business

12. その他：東洋史基礎講義 4 単位を既に履修していることが望ましい。

科目名：東洋史演習／ Oriental History (Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：川合 安

コード：LB65404 科目ナンバリング：LHM-HIS311J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：『晋書』載記の研究Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：A study of JINGSHU ZAIJI

3. 授業の目的と概要：『晋書』載記の研究Ⅰの作業を継続する。Ⅱでは、当該部分の内容に関連する研究論文の調査の比重を高め、先行研究の成果を、現代日本語訳に反映させることを徹底する。これらの作業を通じて、漢文読解力の一層の向上と、中国古代中世史研究の具体的方法の習得を目指す。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The aim of this course is to become able to handle the Chinese classics as historical materials for research by reading “Zaiji” (載記：records of Wu Hu [五胡：The Five Barbarians]) in “Jing Shu” (晋書：History of Jing) .

5. 学習の到達目標：

漢文読解力を向上させ、中国古代中世史の研究方法を身に着ける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students handle the Chinese classics as historical materials for reserch.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

『晋書』載記の研究Ⅰに引き続き、『晋書』巻104 石勒載記上を読み、関連する歴史的事項を調査する。

- 1、ガイダンス、『晋書』載記関連研究論文について
- 2、『晋書』石勒載記上を読む (1) 石勒と王浚 (1)
- 3、『晋書』石勒載記上を読む (2) 石勒と王浚 (2)
- 4、『晋書』石勒載記上を読む (3) 石勒と王浚 (3)
- 5、『晋書』石勒載記上を読む (4) 石勒、王浚攻略を図る
- 6、『晋書』石勒載記上を読む (5) 石勒、王浚を平定 (1)
- 7、『晋書』石勒載記上を読む (6) 石勒、王浚を平定 (2)
- 8、『晋書』石勒載記上を読む (7) 戸籍整備と徴税
- 9、『晋書』石勒載記上を読む (8) 石勒と劉琨の抗争 (1)
- 10、『晋書』石勒載記上を読む (9) 石勒と劉琨の抗争 (2)
- 11、『晋書』劉曜載記上を読む (10) 石勒と劉琨の抗争 (3)
- 12、『晋書』劉曜載記上を読む (11) 遼西の流民の問題
- 13、『晋書』劉曜載記上を読む (12) 劉琨の死 (1)
- 14、『晋書』劉曜載記上を読む (13) 劉琨の死 (2)
- 15、授業の総括

8. 成績評価方法：

毎回の課題によって評価する。

9. 教科書および参考書：教科書：資料を配布する。

参考書：三崎良章『五胡十六国【新訂版】』（東方書店「東方選書」2012年）。小野響『後趙史の研究』（汲古書院、2020年）。

その他、授業中に紹介する。

10. 授業時間外学習：課題の作成に取り組む。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note：“○”Indicates the practical business

12. その他：『晋書』載記の研究Ⅰと連続して履修することが望ましい。